

養気軒

youkiken

vol.14
2008 Spring

●ようきけんとは「新のみならず精神をも動すことのできる館」という意味です。

患者さまと家族が安堵できる

『ヒューマンホスピタル』を目指し努力します。

014 北帰春集 撮影：山川勇造（神経センター部長）



新院長の就任から1年が経ちました。2年目の春を迎え、新たな試み（DPC、ジェネリック医薬品）の導入や外来機能の充実などに取り組んでいます。

長崎神経医療センターはこれまで以上に地域医療支援病院として、また、九州地区の神経センターとして、患者さまの立場に立った、患者さまの望む、患者さまにやさしい医療をめざしています。

CONTENTS

- 02 院長挨拶
- 03 トピックス／サークルnews
- 04 職場紹介③ [3病棟]
編集後記

写真解説：春3月は「ツルの北帰行」の季節。鹿児島で越冬したツルは、韓国まで佐世保市上空を編隊を組んで一気に飛んでいます。写真上は、伊万里の田面に降りた番（つが）い。左下写真は、佐世保市上空を飛ぶ編隊。右下写真は、佐々川下流で見られる伝統的なシロウオ漁です。（山川勇造）



【養気軒】東郷元帥西陣（1905年）

安心・安全がもたらす患者満足の医療 —Patient SafetyからPatient Satisfactionへ— 日本医療マネジメント学会第8回長崎地方会を開催して

国立病院機構長崎神経医療センター 院長 宮下 光世 (みやした こうせい)



平成20年2月23日(上) シーハットおおむら さくらホールで日本医療マネジメント学会第8回長崎地方会を開催しました。最近の医療状況をみると、

度重なる医療事故や救急患者の受け入れ拒否などの報道から、患者と医療者の信頼関係が崩壊していると感じられることより、今一度患者の求める医療、医療者が提供したい医療を考えようという願いをこめて、この会のテーマを「安心・安全がもたらす患者満足の医療—Patient SafetyからPatient Satisfaction へ—」としました。

当日は風の冷たさがありましたが春らしい陽射しを感じる日でした。一般演題20題、クリティカルパス展示25題を長崎県下、五島からも参加があり発表いただきました。

特別講演には早稲田大学大学院法務研究科教授、早稲田大学紛争交渉研究所所長 和田仁孝先生に、「医療

ADR[®]の可能性」と題してお話いただきました。ADRとは裁判によらない紛争解決の方法であります。不幸にして起きる医療事故に対して従来の司法での解決ではなく、本来医療の持つ患者と医療者の協調的関係の構築による解決法をご紹介いただきました。先生は現在このADRを全国に広げようと取り組んでおられます。

シンポジウムは「シームレスな医療連携を求めて」と題して、医療制度改革で求められている医療情報公開とそれを通した更なる医療連携について長崎県での取り組みを6人の方に発表していただきました。討論をお聞きして、患者さん中心で顔が見える連携が基盤として大事で、その実現のためには地域に出て行くネットワークも必要と感じました。

みなさまの積極的な参加で会場では活発な討論がなされ、患者がそして医療者が望む患者満足の医療の姿が見えてきたように思いました。みなさまのご協力に心から感謝申し上げます。

[®]ADR:Alternative Dispute Resolution 裁判によらない紛争解決手段



NST (nutrition support team 栄養サポートチーム)の活動

栄養管理を患者1人1人に応じて適切に実施することを栄養サポートと言い、垣根を越えて医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師らがそれぞれの専門的な知識・技術を活かしながら一致団結して栄養サポートを実践する集団のことをNST (nutrition support team 栄養サポートチーム)と言います。

当院では毎週金曜日の13:00から外科の遠山先生、内科の小山先生を中心に管理栄養士、検査技師、各病棟より1名ずつの看護師が集まりNSTカンファレンスを行っています。食事摂取量が少ない方、絶食が続いている方、体重減少が著しい方、アルブミン値3.0g/dl以下の方、栄養過多の方等を対象に栄養管理が適切になされているかのチェック、ふさわしい栄養管理法の検討、早期栄養療法の開始等を行っています。カンファレンスを行う上でその方が今どのような状態なのか、ゴールはどこなのか、治療方針はどうなのかを把握している事は大変重要です。プライマリーの患者様で栄養管理上気になる方がいらっしゃいましたら参加大歓迎ですので、ぜひNSTカンファレンスで検討しましょう。

また今後はカルテ上のカンファレンスだけではなく

対象患者様のところへ足を運び、患者様の声を聞きながら検討をしていく予定です。金曜日のお昼過ぎ、みかけない集団が病棟へお邪魔致しますがこのメンバーこそ栄養サポートチームですので、どうぞ一緒に入っていただき情報を交換しましょう。

栄養管理はすべての疾患治療の上で共通する基本的医療のひとつであると言われていています。まずは栄養管理について多くの方に興味、関心を持って頂くことが私たちの願いです。(看護師長 坂上 睦子)



サークル news バドミントン倶楽部

今回より当院で活動しているサークル(?)を順次紹介していくことになりました。

栄えある第1回目を仰せつかった「バドミントン倶楽部」です。サークルが発足して2年ほどになります。5名程度で始まった活動も今では20名程度に膨らみました。

幽霊部員もたくさんいますが、毎週金曜日18:00～20:00、隣接する桜が丘看護学校の体育館でやっています。時々親睦を深める飲み会(→こっちの方が盛り上がるかも?)も行っています。最近メタボなあなた、私たちと一緒にイイ汗流しませんか?

(代表 中原 佐代子)



職場紹介 3病棟へようこそ

3病棟(病床数49床)は、循環器内科と消化器内科の病棟です。医師・看護師・看護助手総勢30数名のスタッフが毎日頑張っており、活気のある明るい病棟です。循環器内科は、すべてにパワフルな吉田先生と一見クールに見えるがとても優しい古殿先生により、心臓カテーテル検査・経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー植込み術などの検査・治療を行っています。消化器内科は、神の手(?)と評判のスペシャリストである病棟医長の加藤先生が内視鏡検査・内視鏡的ポリープ切除術などを精力的に行っています。また、神経内科の若き(?)ホープの溝田先生もいらっしゃいます。


看護師は、亀田師長を筆頭に、優しさの中にも厳しさを持った今里副師長、平均年齢〇才の看護師23名と看護助手2名、計27名で、常に笑顔を忘れずチームワークを大切に楽しく働いています。

病棟のクリティカルパス使用件数は、他病棟に比べかなり多く、バリエーションの評価を実施し、医師・看護師・コメディカルが密に連携を取り合っており、患者様が安心して入院生活を送ることができるよう頑張っています。

入退院が多い病棟ですが、入院の要請があれば、3病棟のモットーである「いつでもどうぞ」でお迎えしています。

看護師は、院外のBLS・ACLS認定、循環器エキスパートナース研修を始め、その他の循環器研修、糖尿病看護研修などに積極的に参加し、知識・技術を高め、患者様へよりよい医療と看護が提供できるようなエキスパートナースを目指しています。

今後3病棟では、心臓リハビリテーションの導入や患者指導強化の為に糖尿病チームの立ち上げに向けて、スタッフ一丸となって取り組んでいきます。

3病棟の今後にご期待下さい。
(2年目看護師 1名・今里副看護師長)



編集後記 編集委員 灰塚 ふじ子

暖かな日差しが嬉しい春になりました、養気軒14号をお届けします。今回は当院の担当で開催した医療マネジメント学会長崎地方会の報告、患者様の低栄養状態からの回復に向けてチームで取り組んでいるNSTの紹介、スポーツ活動を行っている職員の紹介を掲載しています。病院内外でのスタッフの活動(意外な一面も)をご覧ください。

4月からいよいよ特定健診・特定保健指導が始まります。「メタボリックシンドローム」の言葉が一人歩きしているようですが、糖尿病など生活習慣病とその予備軍を減少させるために制度化されました。「病氣」にならないために日頃からバランスのとれた食事、継続した運動を実施し、たばこを吸う人は禁煙をしましょう。桜の花の下を歩く事から始めませんか?



- JR大村線川棚駅から徒歩7分、タクシーで2分。急行バス(西肥バス長崎県営バス)は川棚バスセンター停留所で下車、徒歩7分。普通バスは長崎神経医療センター前バス停留所で下車。



独立行政法人 国立病院機構
長崎神経医療センター

〒859-3615 長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005-1
Phone 0956-82-3121(代) Fax 83-3710

予約・フリーダイヤル  **0120-77-6420**

<http://www.hosp.go.jp/~nmcn/>